

3 生涯学習・社会教育

基本目標 新しい時代の学びや地域づくりを支える生涯学習の推進

基本施策1 社会教育の充実

[主な取組]

○利用しやすい環境の整備

[概要]

全ての公民館・交流館に利用者向けの公衆無線 LAN を整備し、Wi-Fi が使用できる環境を整えた。また、5 館の交流館でスマートロックとオンライン申請を運用するため、システム構築や運用方法の検討を行った。

[課題]

スマートロックとオンライン申請の運用の開始にあたっては、地域住民・利用者への十分な説明・周知が必要である。

[今後の方針]

取組中の 5 館のスマートロックとオンライン申請の運用を開始するとともに、他の館へ設置を拡げていく。

○地域情報・学習情報の発信

[概要]

公民館・交流館のホームページをリニューアルし、これまで館ごとに異なっていた形式を統一した。また、掲載項目を増やすとともに、各館の学習情報紙をホームページへ掲載できるように整備した。

[課題]

ホームページのリニューアルは完了したが、館によって更新頻度や掲載情報の質・量にばらつきがある。

[今後の方針]

わかりやすい、掲載情報が豊富など、参考となる館のホームページをモデルに、適切な更新頻度、情報量などを検討し、全館のホームページの充実を図る。

○多様な学習機会の創出

[概要]

対面に加え、オンライン講座が公民館・交流館でも実施できるよう機材や通信環境の整備を行った。また、整備した環境を活用し、オンラインで館同士の連携した講座を実施した。

[課題]

館ごとに職員のデジタルへの意識やスキルが異なり、オンラインを活用した講座の実施状況等に差がある。

[今後の方針]

様々な学習ニーズに応えられるよう、オンラインの学習機会の充実に努める。オンライン学習の

取組が進んでいる館をモデルに、交流館職員へ研修を行い、オンライン講座を企画・運営できるスキルを身につける。

【基本施策に関する指標（数値目標）】

項目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	目標値 2023(R5)年度	最終目標値 2026(R8)年度
1	公民館・交流館利用者数 (オンライン利用含む)	43.1 万人 (2020年度 57.1 万人)	74.1 万人	105万人	110万人

(項目説明)

1：講座への参加やサークル活動、会議等、様々な目的で公民館を利用した人数

【評価】

おおむね 順調	<p>コロナ禍により激減していた公民館・交流館利用者数は、1.7 倍に増加した。</p> <p>コロナ禍が落ち着いてきたことに伴い、感染症対策を行ったうえで対面の講座を再開することができたことや、オンラインを活用した講座等を開催し、市民が自宅等からでも学習できる環境づくりに取り組んだことによるものと捉えている。</p> <p>また、生涯学習にかかる学習情報紙を全館で作成し、継続して情報発信を行っている。</p>
------------	---

【今後のアクションプラン】

利用手続きをスマート化するため、スマートロックとオンライン申請の運用を開始するとともに、多様な学習機会を創出するためのオンライン学習機会をさらに充実させていく。

また、ホームページの掲載内容をさらに充実させ、積極的な情報発信に努める。

基本施策2 知りたいを支える図書館サービスの充実

[主な取組]

○計画的な蔵書の整備

[概要]

利用者の多様なニーズに応じた資料収集に取り組んだ。

福山ゆかりの人物やばらに関する資料、ばらのまち福山ミステリー文学新人賞受賞作品等を収集し、「福山らしさコーナー」や「福ミスコーナー」を設け、利用者に興味関心をもってもらえるよう、資料を効果的に配置した。

雑誌の最新号のカバー等にスポンサー広告を掲載する「雑誌スポンサー制度」により、閲覧雑誌の充実を図った。

[課題]

予約状況や市民等の要望の把握に努める中で、引き続き、満足度向上に向けた蔵書整備に取り組む必要がある。

[今後の方針]

利用者の多様なニーズに応じた資料収集を行うため、要望の把握に努めながら、広範かつ体系的な蔵書整備に取り組む。また、郷土資料の収集に努め、電子図書の充実も図っていく。

○デジタル化の推進

[概要]

デジタルアーカイブシステムにより、「広報ふくやま」や新聞の地域版、郷土資料の閲覧ができるよう整備を進めた。

電子図書について、外国語資料の充実を図るとともに、来館が難しい人に身近に図書を届けるサービスとしてコンテンツを増やした。

[課題]

図書館ホームページのほか Facebook、市公式 LINE などの媒体の活用や、イベントに合わせた PR を通じ、デジタルアーカイブや電子図書について、機会を捉え情報発信を行っていく必要がある。

[今後の方針]

デジタルアーカイブシステムにより貴重な郷土資料をデジタル資料として保存するとともに、ニーズの高い児童書や電子図書コンテンツの充実を継続的に図っていく。

○子どもの読書活動の推進

[概要]

子どもに読書に親んでもらうために、図書館職員が学校等に出向き、ブックトークやお薦め本の紹介などを実施した。

小中学校の総合的な学習の時間に活用する図書や読書活動を推進するための図書の貸出しを行い、児童生徒の読書環境を整えた。

[課題]

ブックトークなどを行う際には、子どもの興味関心や学校等の要望を事前に把握する必要がある。

[今後の方針]

保護者やボランティア向けの講演会やおはなし会等を企画・開催するほか、学校等に出向いての読み聞かせや推薦図書の紹介など、子どもが読書に親しむ環境を整備する。

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	目標値 2023(R5)年度	最終目標値 2026(R8)年度
1	図書館サービス 利用者数	96.2万人 (2020年度 110.6万人)	121.8万人	125万人	135万人

(項目説明)

1：調べ物や行事への参加を含む図書館来館者数と電子図書等の図書館サービスの利用者数の合計

[評価]

おおむね 順調	コロナウイルス感染拡大防止対策のため館内閲覧席や人が集まる行事等を制限しながらの運営であったが、図書館を訪れる利用者は、以前の状況に緩やかに戻りつつある。利用者の要望に応える蔵書整備に努め、紙媒体の図書と電子図書それぞれの特性を活かしたサービスを提供し、誰もが親しめる図書館運営に取り組んだ。
------------	--

[今後のアクションプラン]

中止や人数を制限していた講演会、コンサートなどの行事、おはなし会を再開し、利用者が図書館に戻ってくるよう取り組む。また、新たな利用者を獲得するため、パークPFI事業や様々なイベントへの参加などを通して、図書館サービスをPRしていく。